

出来形管理基準及び規格値

【目次】

【管布設工事】

工種	項
管の据付	(管布)－ 1
弁栓類・鉄蓋の据付(土留類) (碎石基礎工)	(管布)－ 1
弁室その他の構造物(コンクリート) (碎石基礎工) (均しコンクリート)	(管布)－ 1
管防護工(コンクリート) (碎石基礎工) (均しコンクリート)	(管布)－ 1
推進工	(管布)－ 1
シールド工(一次覆工)	(管布)－ 1

【管布設工事】 (路面復旧)

工種	項
アスファルト舗装工(下層路盤工)(上層路盤工・・粒度調整路盤工)(加熱アスファルト安定処理工)(基層工)(表層工)	(管布(路復))－ 1
排水性舗装工(下層路盤工)(上層路盤工・・粒度調整路盤工)(加熱アスファルト安定処理工)(基層工)(表層工)	(管布(路復))－ 1
透水性舗装工(路盤工)(表層工)	(管布(路復))－ 1
コンクリート舗装工(下層路盤工)(上層路盤工)(コンクリート舗装版工)	(管布(路復))－ 1
区画線工	(管布(路復))－ 1

【土木・構造物工事】

工種	項
掘削工(切土工)	(土・構)－ 1
盛土工	(土・構)－ 1
法面整形工(盛土部)	(土・構)－ 1
路床安定処理工	(土・構)－ 1
置換工	(土・構)－ 1
固結工(粉体噴射攪拌工)(高圧噴射攪拌工)(スラリー攪拌工)(生石灰パイル工)	(土・構)－ 1
既製杭工(既製コンクリート杭)(鋼管杭)(H鋼杭)	(土・構)－ 1
矢板工(鋼矢板)(軽量鋼矢板)(コンクリート矢板)(広幅型鋼矢板)(可とう鋼矢板)	(土・構)－ 2
土留・仮締切工(H鋼杭)(鋼矢板)(アンカー工)	(土・構)－ 2
法枠工(現場打法枠工)(現場吹付法枠工)	(土・構)－ 2
法枠工(プレキャスト法枠工)	(土・構)－ 2
アンカー工	(土・構)－ 2
吹付工(コンクリート)(モルタル吹付工)	(土・構)－ 2
植生工(種子散布工)(張芝工)(筋芝工)(市松芝工)(植生シート工)(植生マット工)(植生筋工)(人工張芝工)(植生穴工)	(土・構)－ 3
植生工(植生基材吹付工)(客土吹付工)	(土・構)－ 3
縁石工(縁石工・アスカーブ)	(土・構)－ 3
基礎工(切込砂利)(碎石基礎工)(割ぐり石基礎工)(均しコンクリート)	(土・構)－ 3
小型標識工	(土・構)－ 3
防止柵工(立入防止柵)(転落(横断)防止柵)(車止めポスト)	(土・構)－ 3
路側防護柵工(ガードレール)	(土・構)－ 3
コンクリートブロック工(コンクリートブロック積)(コンクリートブロック張)	(土・構)－ 4
石積(張)工	(土・構)－ 4
場所打擁壁工	(土・構)－ 4
プレキャスト擁壁工	(土・構)－ 4
補強土壁工 (補強土 (テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	(土・構)－ 4
場所打函渠工	(土・構)－ 4
プレキャストカルバート工(プレキャストボックス工)(プレキャストパイプ工)	(土・構)－ 5
側溝工(プレキャストU型側溝)(L型側溝工)(自由勾配側溝)(管渠)	(土・構)－ 5
集水枳工	(土・構)－ 5
側溝工(場所打水路工)	(土・構)－ 5
鉄筋の組立て	(土・構)－ 5
現場打躯体工	(土・構)－ 5
内面保護工	(土・構)－ 5

【土木・構造物工事】 (舗装)

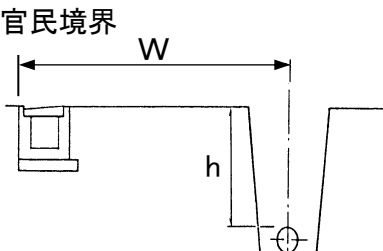
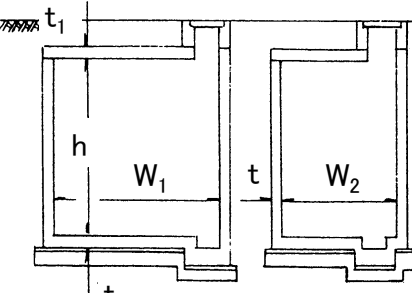
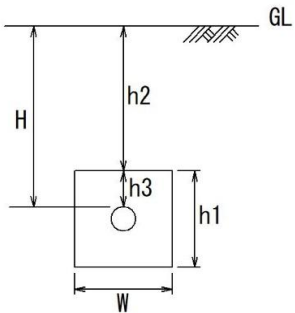
工種	項
アスファルト舗装工(下層路盤工)(上層路盤工・粒度調整路盤工)(加熱アスファルト安定処理工)(基層工)(表層工)	(土・構(舗装))－ 1
排水性舗装工(下層路盤工)(上層路盤工・・粒度調整路盤工)(加熱アスファルト安定処理工)(基層工)(表層工)	(土・構(舗装))－ 1
透水性舗装工(路盤工)(表層工)	(土・構(舗装))－ 2
コンクリート舗装工(下層路盤工)(上層路盤工)(コンクリート舗装版工)	(土・構(舗装))－ 2
アスファルト舗装工(下層路盤工)(上層路盤工・粒度調整路盤工)(加熱アスファルト安定処理工)(基層工)(表層工)	(土・構(舗装))－ 3
排水性舗装工(下層路盤工)(上層路盤工・・粒度調整路盤工)(加熱アスファルト安定処理工)(基層工)(表層工)	(土・構(舗装))－ 3
透水性舗装工(路盤工)(表層工)	(土・構(舗装))－ 4
コンクリート舗装工(下層路盤工)(上層路盤工)(コンクリート舗装版工)	(土・構(舗装))－ 4
区画線工	(土・構(舗装))－ 4

出来形管理基準及び規格値

【管布設工事】

※管布設工事において、次表の工種に記載のない場合は、土木・構造物工事の工種を使用すること。

単位：mm

工 種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
管の据付	延長 L (単位：m)		±0	●旗上げ毎の区間長（整数止めとし、小数点以下切り捨て） ●出来形総括表及び設計平面図に実測値を記入（設計平面図には赤色）し、設計値と対比。（出来形管理図表は不要）				
	占用位置 W		±30	●40mまたは測点毎 ●土被りは、国の通達(H11.3.31付け建設省道政発第32号、建設省国発第5号)の値を下回ってはいけない。				
	土被り h		±30					
弁栓類・鉄蓋の据付 (土留類) (砕石基礎工)	仕切弁設置 (スピントル位置)		センター～±30	●全ヶ所測定 [路面復旧完了後]				
	消火栓(単口・双口)設置 (基準位置またはスピントル位置)							
	空気弁付消火栓設置 (スピントル位置)							
	空気弁設置							
	路面との段差		段差が無いこと					
	基礎	辺長 (径)	設計値以上	●全ヶ所測定				
		厚さ	－30					
弁室その他の構造物 (コンクリート) (砕石基礎工) (均しコンクリート)	弁室 (現場打)	壁 厚 t	-20	●全ヶ所測定				
		床版厚 t1	-20					
		底版厚 t2	-20					
		内空幅 W1, W2	-30					
		内空高 h	±30					
	基礎	辺長	設計値以上					
		厚さ	－30					
	管防護工 (コンクリート) (砕石基礎工) (均しコンクリート)	幅 W			-30	●全ヶ所測定 ●体積は設計値以上とする。		※hが設計値より小さい場合は、コンクリートの大きさについて発注者に確認すること。
高さ h1								
辺長								
土被り h2		-20						
管天～防云天端 h3								
基礎		辺長	設計値以上					
		厚さ	－30					
推進工		基準高		±30	●発進坑、到達坑で測定。			
	中心線の偏位		左右±50	●20m毎に測定。推進延長が20m以下の場合は、任意で2ヶ所測定。				
	管底高		±50	●20m毎に測定。推進延長が20m以下の場合は、両端で測定。				
シールド工(一次覆工)	管底高		±50	●5リング毎に測定。				
	中心線の偏位		左右±100					

※hが設計値より小さい場合は、コンクリートの大きさについて発注者に確認すること。

出来形管理基準及び規格値

【管布設工事】（路面復旧）

※管布設工事において、次表の工種に記載のない場合は、土木・構造物工事の工種を使用すること。

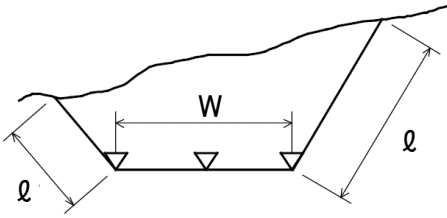
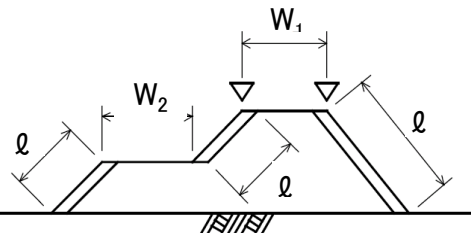
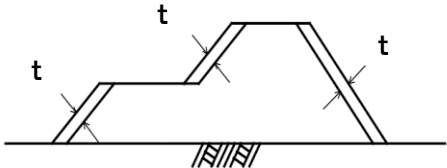
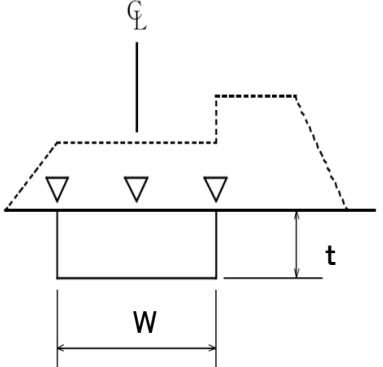
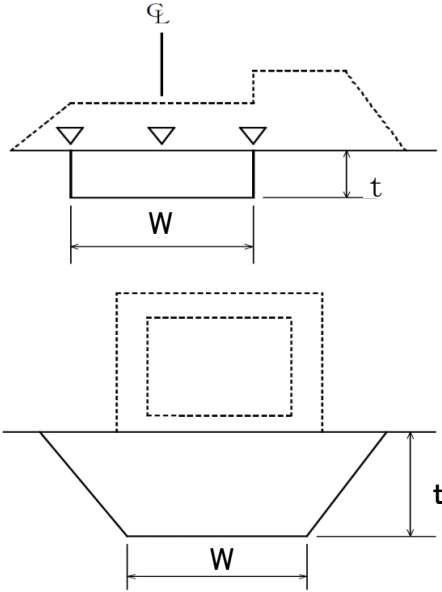
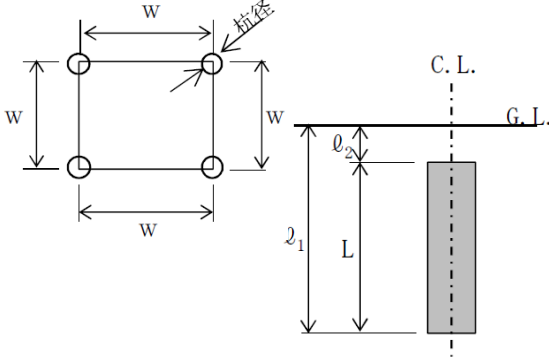
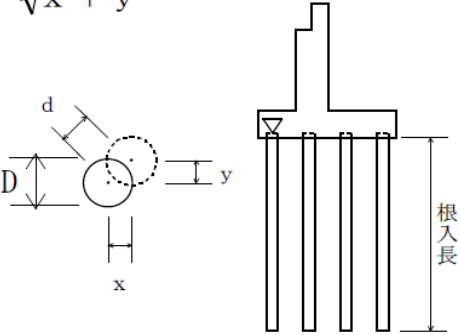
単位：mm

工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
		個々の測定値(X)		10個の測定値の平均(X ₁₀)				
		中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
アスファルト舗装工 (下層路盤工)	厚さ	－45	－45	－15	－15	●各車線40m毎に1ヶ所、40m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を水糸により下がりで測定。 ●下がり測定に加えて各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² 以上あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることが出来る。	
アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	－25	－30	－8	－10	●舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアーを1個採取。		
アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	－15	－20	－5	－7	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とする。 ●厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアーを1個採取。		
アスファルト舗装工 (基層工)	厚さ	－9	－12	－3	－4			
アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	－7	－9	－2	－3	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とする。 ●厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアーを1個採取。		
	幅	－25	－25	－	－			
排水性舗装工 (下層路盤工)	厚さ	－45	－45	－15	－15	●各車線40m毎に1ヶ所、40m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を水糸により下がりで測定。 ●下がり測定に加えて各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることが出来る。	
排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	－25	－30	－8	－10	●舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアーを1個採取。		
排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	－15	－20	－5	－7	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とする。 ●厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアーを1個採取。		
排水性舗装工 (基層工)	厚さ	－9	－12	－3	－4			
排水性舗装工 (表層工)	厚さ	－7	－9	－2	－3	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とする。 ●厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアーを1個採取。		
	幅	－25	－25	－	－			
透水性舗装工 (路盤工)	厚さ (t<15cm)	－30		－10	－	●片側延長40m毎に1ヶ所、40m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を水糸により下がりで測定。 ●下がり測定に加えて片側延長80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ※歩道舗装に適用とする。		
	厚さ (t≥15cm)	－45		－15	－			
透水性舗装工 (表層工)	厚さ	－9		－3	－	●幅は、片側延長40m毎に1ヶ所の割とする。 ●厚さは、片側延長200m毎に1個の割でコアーを採取して測定。 ※歩道舗装に適用する。		
	幅	－25		－	－			
コンクリート舗装工 (下層路盤工)	厚さ	－45		－15	－	●各車線40m毎に1ヶ所、40m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を水糸により下がりで測定。 ●下がり測定に加えて各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、施工面積が2,000m ² 未満。	
コンクリート舗装工 (上層路盤工)	厚さ	－25	－30	－8	－			
コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚さ	－10		－3.5	－	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とする。 ●厚さは、各車線40m毎に1ヶ所、40m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を水糸により下がりで測定。		
	幅	－25		－				
	目地段差	±2			●隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。			
区画線工	厚さ (溶融式のみ)			設計値以上		●施工日、色毎に1ヶ所テストピースにより測定。		
	幅			設計値以上		●各線種毎（実線、破線、ゼブラ、矢印・記号・文字）に測定。		

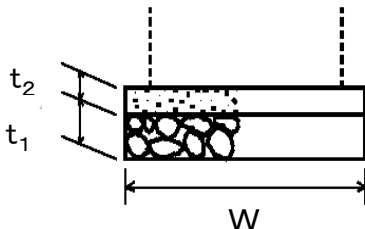
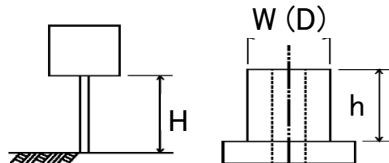
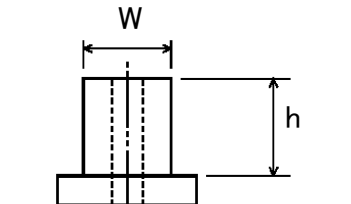
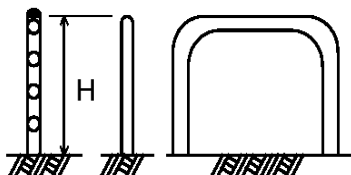
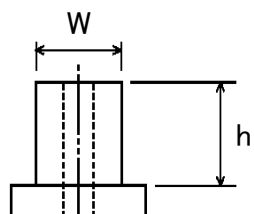
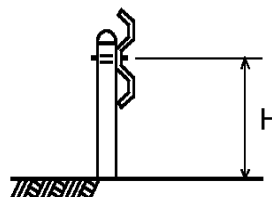
出来形管理基準及び規格値

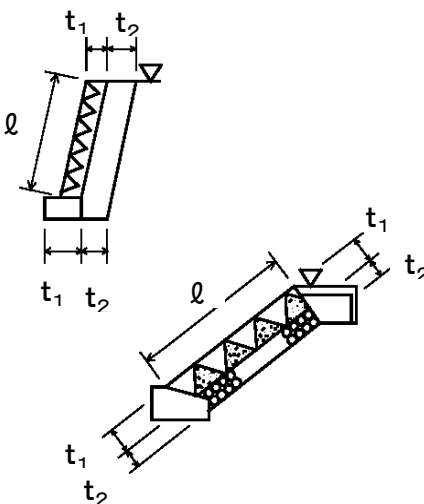
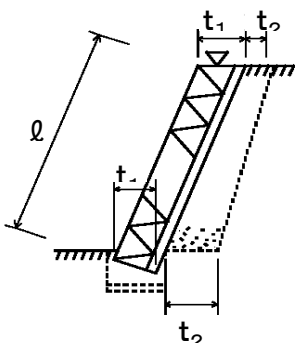
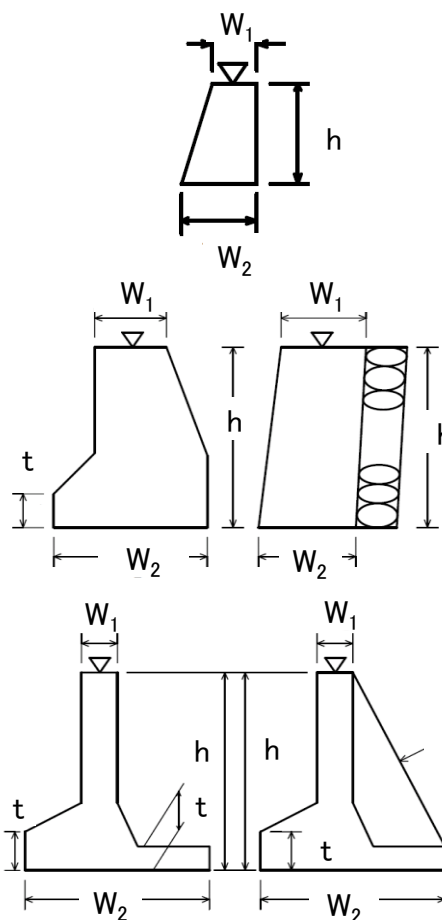
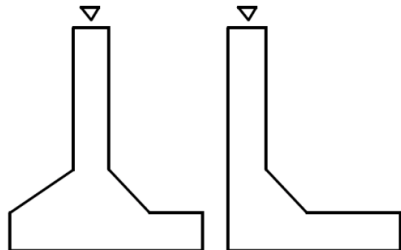
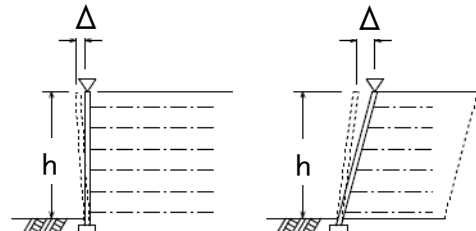
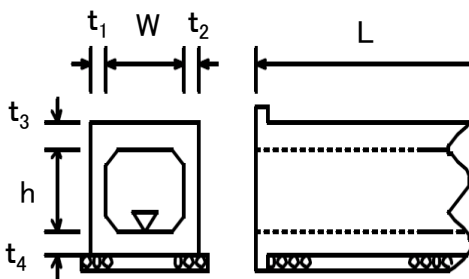
【土木・構造物工事】

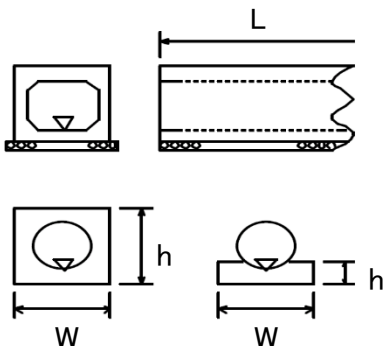
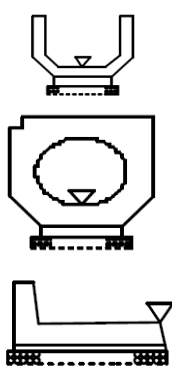
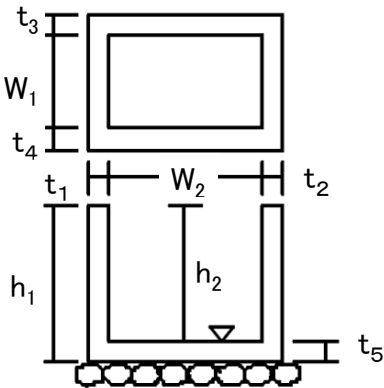
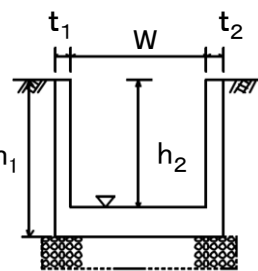
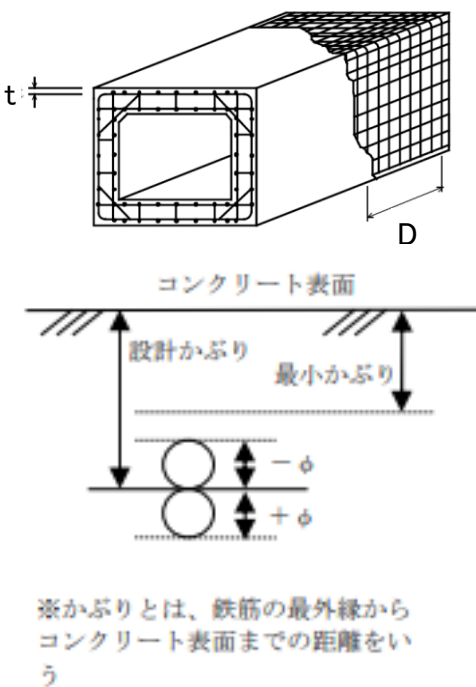
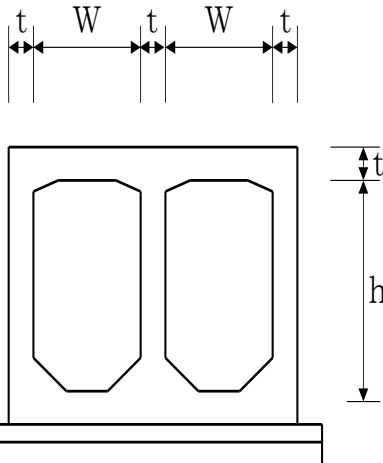
単位：mm

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
掘削工(切土工)	基準高▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。 ●基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
	法長ℓ	ℓ<5m	−200			
		ℓ≥5m	法長−4%			
	幅W		−100			
盛土工	基準高▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。 ●基準高は、各法肩で測定。		
	法長ℓ	ℓ<5m	−100			
		ℓ≥5m	法長−2%			
	幅W1, W2		−100			
法面整形工(盛土部)	厚さt		※−30	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		
路床安定処理工	基準高▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所の割で測定。 ●基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ●厚さは中心線及び端部で測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さt、天端幅W、天端延長Lを確認（実測は不要）。		
	施工厚さt		−50			
	幅W		−100			
	延長L		−200			
置換工	基準高▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●厚さは中心線及び端部で測定。		
	置換厚さt		−50			
	幅W		−100			
	延長L		−200			
固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高▽		−50	●100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。 ●全本数 L=ℓ1−ℓ2 ℓ1は改良体先端深度 ℓ2は改良端天端深度		
	位置・間隔W		D/4以内			
	杭径D		設計値以上			
	深度L		設計値以上			
既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高▽		±50	●全数について杭中心で測定。 ●傾斜は、縦断方向（道路線形方向、橋軸方向等）とそれに直交する横断方向の2方向で測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
	根入長		設計値以上			
	偏心量D		D/4以内 かつ 100以内			
	傾斜		1/100以内			

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
矢板工（指定仮設・任意仮設は除く） （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅型鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基準高 ▽		±50	●基準高は施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。変位は、施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●変位は、施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。				
	根入長		設計値以上					
	変位 ℓ		100					
土留・仮締切工 （H鋼杭） （鋼矢板）	基準高 ▽		±100	●基準高は施工延長40mにつき1ヶ所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
	根入長		設計値以上					
土留・仮締切工 （アンカー工）	削孔深さ ℓ		設計深さ以上	●全数				
	配置誤差		100					
法枠工 （現場打法枠工） （現場吹付法枠工）	法長 ℓ	ℓ<10m	－100	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		曲線部は設計図書による		
		ℓ≧10m	－200					
	幅 W		－30	●枠延延長100mにつき1ヶ所、枠延延長100m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。				
	高さ h		－30					
	枠中心間隔 a		±100					
	延長 L		－200	●1施工箇所毎 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。				
法枠工 （プレキャスト法枠工）	法長 ℓ	ℓ<10m	－100	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
		ℓ≧10m	－200					
	延長 L		－200	●1施工箇所毎				
アンカー工	削孔深さ ℓ		設計値以上	●全数		鉄筋挿入工にも適用する		
	配置誤差 D		100					
	せん孔方向 θ		±2.5度					
吹付工 （コンクリート） （モルタル）	法長 ℓ	ℓ<3m	－50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。 ●200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下は2ヶ所をせん孔により測定。 ●1施工箇所毎 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。				
		ℓ≧3m	－100					
	厚さ t	t<5cm	－10					
		t≧5cm	－20					
		ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上						
	延長 L		－200					

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土 法長 ℓ	ℓ<5m	－200	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		
		ℓ≧5m	法長の－4%			
	盛土 法長 ℓ	ℓ<5m	－100			
		ℓ≧5m	法長の－2%			
	延長 L		－200	●1施工箇所毎 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		
植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長 ℓ	ℓ<5m	－200	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		
		ℓ≧5m	法長の－4%			
	厚さ t	t<5cm	－10	●施工面積200㎡につき1ヶ所、200㎡以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。 ●検査孔により測定。		
		t≧5cm	－20			
		ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上				
	延長 L		－200	●1施工箇所毎 ●計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		
縁石工 (縁石・アスカーフ*)	延長 L		－200	●1ヶ所/1施工箇所 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
基礎工 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 W		設計値以上	●施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
	厚さ t1, t2		－30			
	延長 L		各構造物の規格値による			
小型標識工	設置高さ h		設計値以上	●1ヶ所/1基		
	基礎	幅 W (D)	－30	●基礎1基毎 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
		高さ h	－30			
		根入長	設計値以上			
防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 W	－30	●単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 ●1ヶ所/1施工箇所 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	 	
		高さ h	－30			
	パイプ取付高 h		+30 －20			
路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 W	－30	●1ヶ所/施工延長40m、延長40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 ●1ヶ所/1施工箇所 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	 	
		高さ h	－30			
	ビーム取付高 h		+30 －20			

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張)	基準高 ▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。				
	法長 ℓ	ℓ<3m	－50					
		ℓ≥3m	－100					
	厚さ(ブロック積張)t1		－50					
	厚さ(裏込)t2		－50					
	延長 L		－200					
石積(張)工	基準高 ▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●厚さは、上端部及び下端部の2ヶ所を測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。				
	法長 ℓ	ℓ<3m	－50					
		ℓ≥3m	－100					
	厚さ(石積・張)t1		－50					
	厚さ(裏込) t2		－50					
	延長 L		－200					
場所打擁壁工	基準高 ▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。				
	厚さ t		－20					
	裏 込 厚 さ		－50					
	幅 W1, W2		－30					
	高さ h	h<3m	－50	●1施工箇所毎 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。				
		h≥3m	－100					
	延長 L		－200					
プレキャスト擁壁工	基準高 ▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。				
	延長 L		－200					
補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 ▽		±50	●施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。				
	高さ h	h<3m	-50					
		h≥3m	-100					
	鉛直度 △		±0.03hかつ ±300以内					
	控え長さ		設計値以上	●1施工箇所毎 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。				
	延長 L		-200					
場所打函渠工	基準高 ▽		±30	●両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。				
	厚さ t1～t4		－20					
	幅(内法) W		－30					
	高さ h		±30					
	延長 L	L<20m	－50					
		L≥20m	－100					

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高 ▽	±30	●施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合		
	※幅 W	－50			
	※高さ h	－30			
	延長 L	－200	●1施工箇所毎		
側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 ▽	±30	●施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●厚さ以外の測定項目については、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	延長 L	－200	●1ヶ所/1施工箇所毎 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
集水桝工	基準高 ▽	±30	●1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合 ●厚さ以外の測定項目については、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	※厚さ t1～t5	－20			
	※幅 W1, W2	－30			
	※高さ h1, h2	－30			
側溝工 (場所打水路工)	基準高 ▽	±30	●施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ●厚さ以外の測定項目については、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	厚さ t1, t2	－20			
	幅 W	－30			
	高さ h1, h2	－30			
	延長 L	－200	●1施工箇所毎 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
鉄筋の組立て	平均間隔 d	±φ	d=D/(n－1)		
	かぶり t	設計かぶり±φ かつ 最小かぶり以上	D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径 ●工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で1ヶ所以上測定する。 ●鉄筋の最小かぶりは、コンクリート標準示方書(設計編：標準7編2章2.1)参照。 ※重要構造物かつ主鉄筋について適用する。		
現場打躯体工	基準高 ▽	±30	●基準高は、設計図面表示箇所で測定。 ●厚さの測定箇所 壁……施工継手箇所の端部及び中央部 底版……施工継手箇所の端部及び中央部 スラブ…開口部		
	厚さ t	－20			
	内空幅 W	－30			
	内空高 h	±30			
	長さ	－50			
内面保護工	塗膜厚	0.5以上	●原則として500m2につき3ヶ所測定。 ●測定は、各壁面と床面の双方で行い、柱がある場合は5本に1本の割合で行い、柱のいずれかの1面で実施。 ●測定位置については、監督員と協議。		
	コンクリートとの付着強さ	1.2N/mm2以上			

出来形管理基準及び規格値

【土木・構造物工事】（舗装工）

単位：mm

工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
		個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X10)				
		中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	－	－	●基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 ●厚さは各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合は該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 1施工面積で1,000m2以上10,000m2未満2使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
	厚 さ	－45	－45	－15	－15			
	幅	－50	－50	－	－			
アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－8	－10	●厚さは各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	幅	－50	－50	－	－			
アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－5	－7	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアを1個採取。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	幅	－50	－50	－	－			
アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	－9	－12	－3	－4			
	幅	－25	－25	－	－			
アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	－7	－9	－2	－3	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアを1個採取。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	幅	－25	－25	－	－			
	平坦性	－	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下直読式(足付き) (σ)1.75mm以下					
排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	－	－	●基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 ●厚さは各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合は該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
	厚 さ	－45	－45	－15	－15			
	幅	－50	－50	－	－			
排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－8	－10	●厚さは各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	幅	－50	－50	－	－			
排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－5	－7	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアを1個採取。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	幅	－50	－50	－	－			
排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	－9	－12	－3	－4			
	幅	－25	－25	－	－			
排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	－7	－9	－2	－3	●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、舗装種別（号工）毎に1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。1,000㎡未満については、舗装種別（号工）毎にコアを1個採取。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
	幅	－25	－25	－	－			
	平坦性	－	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下直読式(足付き) (σ)1.75mm以下					

工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
		個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X10)				
		中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50		－			工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
	厚さ (t<15cm)	－30		－10				
	厚さ (t≥15cm)	－45		－15				
	幅	－100		－				
透水性舗装工 (表層工)	厚 さ	－9		－3		●幅は、片側延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、片側延長200m毎に1個の割でコアーを採取して測定。 ※歩道舗装に適用する。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることが出来る。	
	幅	－25		－				
コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	－		●基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 ●厚さは各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。 ●「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m2以上とする。 小規模工事とは、施工面積が2,000m2未満。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	
	厚 さ	－45		－15				
	幅	－50		－				
コンクリート舗装工 (上層路盤工)	厚 さ	－25	－30	－8		●厚さは各車線80m毎に1ヶ所、80m未満10m以上の場合は1施工箇所につき2ヶ所、10m未満の場合は1施工箇所につき1ヶ所を掘り起こして測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。		
	幅	－50		－				
コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	－10		－3.5		●厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後、各車線80m毎に水糸又はレベルにより1測線あたり横断方向に3ヶ所以上測定。 ●幅は、延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 ●平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
	幅	－25		－				
	平坦性	－		コンクリートの硬化後3mプロフィルメーターより機械舗設の場合 (σ) 2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ) 3mm以下				
	目地段差	±2						
						●隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
		個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X/10)				
		中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±90	±90	+40 －15	+50 －15	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が3,000tの場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 1施工面積で1,000m2以上10,000m2未満 2使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
	厚さあるいは 標高較差	±90	±90	+40 －15	+50 －15			
アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－54	－63	－8	－10			
アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－36	－45	－5	－7			
アスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－20	－25	－3	－4			
アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－17	－20	－2	－3			
	平坦性	－		3mプロフィール メーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±90	±90	+40 －15	+50 －15	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000tの場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
	厚さあるいは 標高較差	±90	±90	+40 －15	+50 －15			
排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－54	－63	－8	－10			
排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－20	－25	－3	－4			
排水性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－20	－25	－3	－4			
排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	－17	－20	－2	－3			
	平坦性	－		3mプロフィール メーター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下				

工種	測定項目		規格値				測定基準	測定箇所	摘要
			個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X10)				
			中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
透水性舗装工 (路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	t<15cm	+90 -70		+50 -10		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。 ※歩道舗装に適用する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000tの場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
		t≥15cm	±90		+50 -15				
	厚さあるいは標高較差	t<15cm	+90 -70		+50 -10				
		t≥15cm	±90		+50 -15				
透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差		-20		-3		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。 ※歩道舗装に適用する。		
コンクリート舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）舗装工編 多点計測技術（面管理の場合）」に基づき出形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。 ※歩道舗装に適用する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m2以上とする。 小規模工事とは、施工面積が2,000m2未満とする。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。		
	厚さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15				
コンクリート舗装工 (上層路盤工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-8		5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。 ※歩道舗装に適用する。			
コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-22		-3.5		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。			
	平坦性	-		コンクリートの硬化後3mプロフィールメーターより機械舗設の場合 (σ) 2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ) 3mm以下					
	目地段差	±2							
区画線工	厚さ (熔融式のみ)	設計値以上				●施工日、色毎に1ヶ所テストピースにより測定。			
	幅	設計値以上				●各線種毎（実線、破線、ゼブラ、矢印・記号・文字）に測定。			